

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2020.07.No275

7月号

目次

オンライン会議ツール導入 本会ホームページを新しく構築し、 リニューアルする！……………	1
特集……………	2
・令和元年度北海道赤レンガ建築賞 ・令和元年度北海道赤レンガ建築奨励賞	
青年・女性の窓……………	6
〔青年委員会〕	
Coffee Break……………	7
information……………	8

URL <http://www.h-ab.com/>

オンライン会議ツール導入 本会ホームページを新しく構築し、リニューアルする！

情報委員会委員長 齋藤勝哉 (旭川支部)

緊急事態宣言が解除されて一カ月少々が経過しますが、依然として警戒に予断を許さない状況が続いております。この新型コロナ禍において改めてテレワーク・リモートワークが提言、推奨されているところではありますが、我々建築士を取り巻く業界は、もともとリモートワークを積極的に取り入れてきた環境にあると認識しています。

北海道建築士会では、新型コロナウイルスの影響がでる以前より実行委員会のweb会議を実施しておりましたが、この度、実行委員会の会議だけではなく、理事会等の会議に幅広く活用できる、プランの内容、料金、利便性、接続の状況、画面の鮮明度、接続機器（パソコン、スマホ、タブレット等可）、参加者側の取扱いの簡易性について主要7社を比較・検討した結果、オンライン会議ツール（Zoom）を導入することになりました。

これにより、この広大な北海道全域の支部や会員の方が移動時間を気にすることなく、好きな場所で自由に参加できることになり、遠距離にいる相手とも気軽にコミュニケーションが取れるようになります。また、メールでは読み取れない相手の表情がみえるなど、顔を突き合わせて話すので信頼性も増すのではないかと考えます。

とは言え、すべてをWeb上で実施するわけではありません。密にならない状況下では、通常の会議や委員会も実施されます。

多くの人が集まるような、講習会・イベント等も、開催が大変厳しくなっております。会員の自己研鑽の場が限られている現在、約4,000名の会員を有する本会においては、ホームページを利用した情報の提供は、必須であると考えられます。

平成12年1月1日に開設し、必要に応じて修正や改良を行い現在まで運用してきたホームページは、

「掲載している情報が増えすぎて整理ができていない」などに加え、構造上の無理が出てきており、時代の流れにマッチしなくなってきたことから今回、新しく構築し、改良（リニューアル）することになりました。

■この改良を検討しているイメージは、

1. 会員のみ閲覧等権限の追加
2. 講習会・セミナーのWebでの実施及びスマートフォンでの視聴対応
3. 各種書籍や教材の販売・購入機能の追加等

■こういったことを改良することで、

1. 会員と一般との情報提供等の差別化
2. 参加者の移動に伴う時間・交通費の削減
3. 参加者の参加場所の自由化
4. CPD単位取得の促進
5. 運営側の会場の確保・費用負担の削減
6. 運営側の印刷の作業と費用の削減

などのメリットが期待できると考えております。

これからは、オンライン会議や新ホームページの構築、改良に向けた作業部会として、「Web working（総括・常務理事4名）」を設置して、

1. Web会議ツール導入のサポートについて
2. ホームページの改良について

などより具現化した検討を加え、少しでも早く会員の皆様に活用していただけるよう進めてまいります。

今回の新型コロナを機に、北海道建築士会の活動運用の変革の一ページが開かれました。

今後、新型コロナが沈静化し、全道大会や青年建築士のイベント等、会員が集い皆さんとお会いできる日が来ることを楽しみにしております。

令和元年度 北海道赤レンガ建築賞

当麻町役場

■建築主 当麻町

■設計者 《山下・柴滝設計等共同体》
 (株)山下設計北海道支社 (株)柴滝建築設計事務所
 (株)山脇克彦建築構造設計

■施工者 《盛永・大野土建・石川特定建設工事共同体企業体》
 (株)盛永組 大野土建(株) 石川建設(株)

■建築物の概要
 所在地 上川郡当麻町3条東2丁目11番1号
 主要用途 役場庁舎
 構造及び階数 木造2階
 建築面積 2,120.04㎡
 延べ面積 2,669.87㎡
 竣工年月日 平成30年11月30日

撮影：酒井 広司



□企画の特徴（地域との関わりなど、特に配慮した点）

地産地消の公共建築で、まちの産業を活性化する

当麻町は農林業を基幹産業とした人口約6,500人の町で、町の約65%は山林となっています。当麻町と設計者・施工者の関わりは、「当麻町公民館“まとまる”（2014）」にはじまり、木育推進施設「くるみなの木遊館（2016）」、そして今回の役場へと繋がります。

この計画において、私たちは、役場を様々な木の使い方の可能性を示すショールームと位置づけ、まちの産業の活性化の拠点とすることを考えました。「一般流通木材による大空間の実現」を目標に、構造的に木造在来軸組構法を用いた準耐火建築物とし、地元大工や職人、技術者が施工可能な地産地消の公共施設を目指しました。

□設計の特徴

一般流通木材による在来軸組構法で大空間をつくる

地域の産業としての木造建築普及や林業育成のため、汎用性の高い在来軸組構法により、3.64mグリッドを基本モジュールとし、これを連続することで執務室の大空間を確保しています。このモジュールは各部門や什器の配置などを繰り返しスタディしながら決定しています。

木材は町産材100%＋カラマツ無垢材の構造材利用

木材を構造材のほか、造作家具や仕上材にも町産材を100%活用しています。執務室の構造材には、「コアドライ®」と呼ばれる新たな乾燥技術によって心持のまま製材された120mm角のカラマツ無垢材を使用しています。

働く人達の知的生産性の向上＝住民サービスの向上

執務室は、旧役場では分散・個室化でしたが、今計画では部門間の連携を促進するため、見通しの良いワンルーム空間として計画しました。訪れた住民に対応する窓口を一本化し、各部門の職員が窓口に向かうワンストップサービスの窓口対応としています。

□施工の特徴（工法の特徴、施工上の配慮、工夫等）

高気密高断熱の木造在来軸組構法による施工

地域に寒冷地住宅の施工に長けている職人が多く存在することから、それらを最大限、この計画に活かした木造在来軸組構法による施工としています。

仮設庁舎を作らない施工計画

施工は1・2期の分割施工とし、1期目に隣接する旧庁舎から引越し、2期目を公民館と接続しながら施工し、仮設庁舎を作らず、庁舎業務の休止がない計画としました。

□完成後の地域への貢献度等

地域の就業人口の増加への貢献

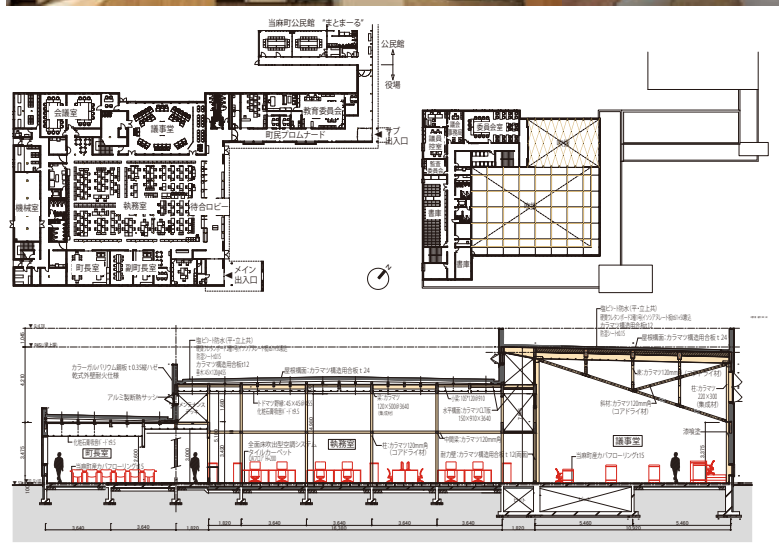
当麻町では公共施設の木造化、移住者等への住宅建設の木材費補助等の政策を推し進め、今回の役場庁舎においても木材の100%町産材活用により、当麻町森林組合の業務拡大、職員数の増加へ貢献しています。

新しい庁舎における業務効率と住民サービスの向上

執務室のワンルーム化により、他部門とのコミュニケーションが自然と行われ、様々な場所で意思疎通が行え、一体感ある執務空間を実現し、業務の高効率化が図られました。それにより、住民に対しても一体感あるサービス対応を可能とし、町民からの好評を得ています。

木材活用施設としての庁舎

新役場完成後の官民合わせての視察者が役場庁舎完成後で約1,150人に達し、町産材利用方法についてのアピールと町内滞在人口の増加に繋がっています。また、議事堂では議会の他に様々な会合、会議にも利用され、多目的に開かれた講堂として活用されています。



審査講評

当麻町役場（2018年竣工）は、公民館まともーる（2014年竣工）、くるみなの木遊館（2016年竣工）のほか木造町営住宅や子育て支援センター、など一連の町産材を活かした地元大工施工による、町民が利用しやすい公共建築の集大成ともいえる。まともーる、木遊館、役場は、設計者と施工者も同じで、永年にわたるまちの将来像と町施設のあり方についての町民との対話から生み出されている。平成22年の旧庁舎の耐震診断から始まり、買取型プロポーザル方式による事業推進など「地産地消の公共建築でまちの産業を活性化する」という一貫したコンセプトがある。地元大工による在来軸組構法の大空間、町産材100%とコアドライしたカラマツ材利用、住民サービスと職員の生産性の向上の両立が3つのポイントになっている。

執務室の3.64mグリッドの架構と議事堂の斜め3次元格子片流れ立体トラス、執務室廻りの耐震要素は構造デザインの教科書のようなものである。オフィスとしてワンストップ型窓口とワンルーム型を採用し、自然型の採光・換気・排煙、全面床吹出型空調、アンビエント照明、森林組合製材工場の端材によるバイオマスボイラーなど室内環境に配慮した計画である。オフィスのレイアウトはグリッドによる制約のなかで今後の可能性も感じられる。また、外観はレンガ色で内部は赤色



の土佐漆喰の議事堂は、黒色を基調とした外観と白色を基調とした内観と呼応している。公民館まともーるとつながるマッシブな外観は、タウンホールとしてさらに町民活動の拠点となり、まちのシンボルになることを期待させる。

以上の点を踏まえ、「当麻町役場」は、永年にわたる町民との対話により結実した公共施設で、地域社会の発展に貢献する創造豊かな建築であり、建築文化の振興や地域に根ざしたまちづくりに貢献し、意匠的にも優れ、町民の活動の場を創造した建築であることを評価して令和元年度の北海道赤レンガ建築賞を贈る。

北海道赤レンガ建築賞 審査委員長 羽深 久夫

東川町複合交流施設 せんとぴゅあ

■建築主	東川町
■設計者	小篠隆生 (株)ドーコン 《フंक・アイエイ・KITABA特定建築設計共同企業体》 (株)アトリエフंक (株)アイエイ研究所 (株)KITABA 伊藤千織デザイン事務所
■施工者	【せんとぴゅあⅠ】 《高組・小岩特定建設工事共同企業体》 (株)高組 (株)小岩組 《新谷・吉宮・小岩・松井組特定建設工事共同企業体》 新谷建設(株) 吉宮建設(株) (株)小岩組 松井組工建(株) 【せんとぴゅあⅡ】 《橋本川島・盛永・高・小岩特定建設工事共同企業体》 (株)橋本川島コーポレーション (株)盛永組 (株)高組 (株)小岩組

■建築物の概要	所在地 上川郡東川町北町1丁目1番1号
	主要用途 各種学校、美術館、飲食店、旅館、図書館
	構造及び階数 【せんとぴゅあⅠ】 RC造、鉄骨造、木造一部2階建 【せんとぴゅあⅡ】 RC造一部鉄骨造平屋建
	建築面積 【せんとぴゅあⅠ】：3,024.77㎡ 【せんとぴゅあⅡ】：2,744.48㎡
	延べ面積 【せんとぴゅあⅠ】：4,220.65㎡ 【せんとぴゅあⅡ】：2,458.07㎡
	竣工年月日 【せんとぴゅあⅠ】：平成28年9月30日 【せんとぴゅあⅡ】：平成30年3月23日



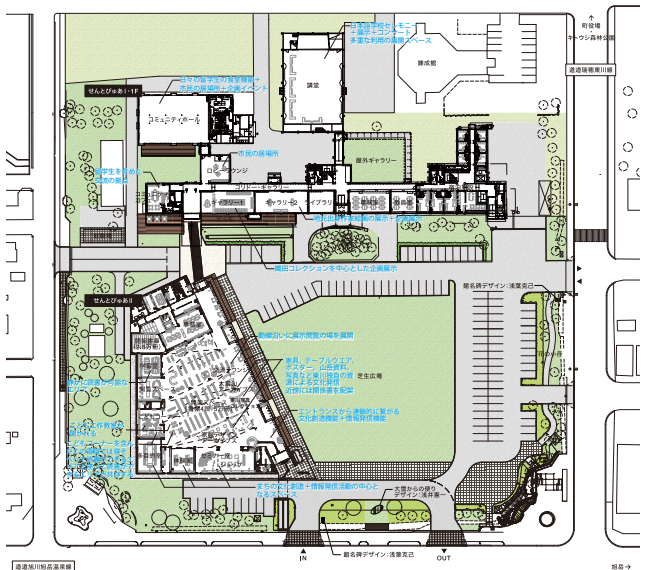
□企画の特徴（地域との関わりなど、特に配慮した点）
東川町は、写真文化を手掛かりに地域の自然、文化資源を生かした住民と来訪者との交流を通じたまちづくり活動を展開してきました。一方で、長年蓄積された活動と多分野に及ぶ資源が増大し、これらをさらに活かした住民や来訪者への効果的な情報発信、住民生活文化の向上、中心市街地の回遊型ネットワークの構築など新たなまちづくりの課題が顕在化してきました。そこで、町の中心部にあり、2014年に移転した東川小学校（平成27年度赤レンガ建築奨励賞受賞）の敷地と旧校舎を利用して、まちづくりの新たな展開を目指す拠点を創るとするのが本計画です。日本語学校をコアにした国際交流、ユニークな地域文化資源の展示や活動による情報発信、食育の展開、社会教育の推進、コミュニティ支援、産業振興に関する機能を融合化し、来館者に予想もしなかった新しい発見や創造の体験をもたらす、まったく新しいプログラムを持つ地域拠点を整備しました。

□設計の特徴
地域住民の記憶を留める旧小学校の校舎をリノベーションして活用し、留学生のための日本語学校、宿泊機能、ギャラリー、コミュニティ・カフェ、コミュニティ・ホールという機能が盛り込まれた「せんとぴゅあⅠ」と、その南側の旧校庭部分に増築した図書館機能、美術館機能、博物館機能、コミュニティ機能が融合する「せんとぴゅあⅡ」という構成をとっています。旧校舎は、耐震補強をしつつ、廊下と教室の間には大きな開口を取りギャラリーとして一体化、法規上の対応や滞留空間のために、特別教室を吹抜を持つカフェやラウンジに生まれ変わらせました。一方、増築部分は、

図書機能を媒介に、さまざまな活動や情報にアクセスできる大空間を創り出すために、鉄骨ラーメンと木造集成材を組み合わせ開放性、一体性を持った空間構成をつくり出しました。

□施工の特徴（工法の特徴、施工上の配慮、工夫等）
築60年近い標準設計型の小学校校舎を新しい機能に対応させるために、必要となる法規的な制約をクリアしつつ、耐震的に問題のない間仕切り壁や床を撤去するために、竣工図などの資料がない中で既存建築を施工段階で精密な検証を行いながら施工を進めました。新築部分では、施工精度が必要な大空間部分を支える鉄骨造と木造のハイブリッドな架構を成立させるための製品管理、施工管理には施工図作成段階のディテール検討から3次元CGによる立体検討を重ね、地元施工業者と共に技術検討を行い、現場施工を行いました。

□完成後の地域への貢献度等
2018年7月に「せんとぴゅあⅡ」が開館し、全ての機能が稼働し出してから、月間の入館者数が平均で約8,000人を確保しており、2019年11月までの累計で22万人を超える来館者が訪れています。本プロジェクトが完成する前には、別々に運営されていた図書、アート・写真展示、講演会、国際交流、コミュニティ活動が一体化され、双方を関連させた企画などが行われ総合的な情報発信や交流活動の展開を生んでいます。それが、生活文化の向上だけでなく、産業振興、中心市街地活性化などまちづくりの課題解決に繋がる企画を、行政だけでなく、町民からも生み出し、新たな活動の芽が出はじめています。



審査講評

東川町のせんとぴゅあは、旧東川小学校校舎をリノベーションしたせんとぴゅあⅠ（文化芸術交流センター）と、5万冊の開架書籍と大雪山アーカイブ・東川写真コレクション・織田コレクションの椅子・君の椅子などの新築した展示スペースのせんとぴゅあⅡ（写真文化首都創成館）からなる複合交流施設である。2014年に移転した明治32年（1899）開校の東川小学校の記憶が残る敷地に、ギャラリー・コミュニティーホールなどの展示、国際交流、日本語学校の運営拠点としての施設がせんとぴゅあⅠであり、大雪山連峰への視界を軸とした大雪山アーカイブス、東川写真コレクション、織田コレクション・君の椅子をつなげるほんの森ゾーンとこれらを包み込む管理とコミュニティーゾーンの施設がせんとぴゅあⅡである。町の創生総合戦略をもとに公共施設の再整備を検討し、2014年から建設運営委員会と運営企画検討プロジェクトからなる運営企画委員会で計画し、竣工後は運営企画プロジェクト会議と運営協議会で運営をしている。

せんとぴゅあⅠは、RC造2階建の一般教室と特別教室、S造の体育館、木造のランチルームに耐震補強と断熱改修を施し、新たな機能に対応させている。せ

んとぴゅあⅡは、ほんの森を中心とするワンルーム空間を鉄骨と木のハイブリッド構造で支え、ガラスの大開口部と3.2mの跳ね出した庇空間で旧校庭の芝生空間と大雪山へ続く軸線の連続性を作り出している。3つのハイサイドライトは自然光の採光だけでなく、重力換気の機能もある。せんとぴゅあⅠは、旧教室を残したり、校庭の植生を活かすなど昔日の学び舎として同窓会活動を支え、せんとぴゅあⅡとともに、町民の活動の場・居場所として定着している。

以上の点を踏まえ、「東川町複合交流施設せんとぴゅあ」は、永年にわたるまちづくり活動の成果で、地域社会の発展に貢献する創造豊かな建築であり、建築文化の振興や地域に根ざしたまちづくりに貢献し、意匠的にも優れ、記憶の継承と新たな記憶の創造を行った建築であることを評価して令和元年度の北海道赤レンガ建築奨励賞を贈る。移転した東川小学校・地域交流センターも平成27年度北海道赤レンガ建築賞奨励賞を受賞しているので、建築としての東川小学校の新たな物語も創り出された。

北海道赤レンガ建築賞 審査委員長 羽深 久夫

青年委員会

青年は今どこへ向かうべきか

委員長

近藤 真人 (小樽支部)



令和2年役員改正を行い、本年より、青年委員長を仰せつかりました。矢先の「新型コロナウイルス感染症」感染拡大からの緊急事態宣言！不要不急の外出は控えましょう！となり……全く青年委員会としての活動ができておりません。本来であれば毎年の恒例行事を行い、何かほかにも青年委員会の魅力を発信できるイベント、セミナー開催して皆様と膝を突き合わせ、懇親を深めようとするスタートの時期でした。

3月に予定しておりました「全道青年委員会連絡会議」も中止となりましたが、研修会の準備は進めておりました。「災害時における建築士の役割を考える」とのお題で、札幌司法書士会の方、NPO法人の理事長の方、さらには昨年の「青年建築士の集い」でお世話になりました厚真町社会福祉協議会の山ノ下様を迎え「パネルディスカッション&ワークショップ」を企画しましたが残念ながら、コロナ感染の恐れから中止となりました。その後、青年委員会はWeb会議を行いました、いまいちネット環境の違いでうまくいかず、連絡事項程度の会議となりました。

さらには、「青年建築士の集い」は5月16日に予定しておりましたが残念ながら中止といたしました。企画案としましては、海軍通信司令部の歴史的建造物見学や、稚内市に新築予定のカーリング場の見学。さらにはカーリング体験が出来ればと思い、私も現地確認と打ち合わせに一度稚内へ出向きましたのは4月初旬の頃で、宗谷管内の感染者はいませんでした、自粛モードは漂いつつありま

した。また、将来、建築士に憧れを抱いてもらい、建築に対して興味を持ってもらうと企画している新札幌アークシティサンピアザで毎年6月に行っている子供向けイベント「お仕事体験イベント」も言うまでもなく「3密」は避けられないとの判断で中止となっています。建築士会の仲間、さらには子供や保護者までの人数を考えるといたし方ないと思っております。

最近、日本建築士会連合会のFacebookの活用が盛んで、3月に宮城県で予定しておりました「全国青年委員長会議」の中止にともない、本来47都道府県の青年委員長が一同に集まり「僕らが考える明日、10年後の建築士」のテーマで語り合い、酒を酌み交わすことも結局出来ずに終わりました。実は、この原稿寄稿作成している本日、連合青年委員会の函館支部末吉委員と次期連合青年委員会への出向として日高支部亀田委員との北海道ブロックZoom会議を全国の青年委員長の皆様へライブ配信を行います。ちなみに連合青年委員会と全国青年委員長のみなさんのみしか閲覧できない！((笑))との事です。しっかり北海道ブロックのPRをしたいと思います。

昨年の全国大会函館開催の青年フォーラムでお世話になりましたSNSアドバイザーの竹村先生も札幌の方でZoom会議に飛び入り参加して頂きました。6月6日に「全国青年委員長会議」代替としてSNSの入門講座セミナーをFacebook上で竹村先生のWebセミナーを開催しました。全国47都道府県の青年委員長が視聴して各都道府県、各支部に配信、情報共有出来ればよいと考えております。「SNSと建築士会」会員の関係をどのように利用していくべきか模索しており、今回のセミナーは、まさに時代の流れに合っていると思っております。全国7ブロックのFacebookによるライブ配信が終

了し、色々なSNSに対する質問疑問を連合青年委員がまとめ今回のWebセミナーにむけて準備しているようです。北海道ブロック代表の末吉委員、本当にお疲れ様です。そして次期連合青年委員会亀田委員、全国とのネットワーク構築よろしくおねがいします。

北海道建築士会青年委員会としても、今回の「感染拡大」緊急事態宣言を受け「新北海道スタイル」に慣れていく上でSNSの活用方法をみなさまと一緒に考えていく良いきっかけとなりました。今期の青年委員会の予算編成も変更を余儀なくされ、SNS利用に対しての投資も視野に置いております。みなさまで色々と意見交換をして今後の活動の役に立てばと思っております。観光・飲食業界大打撃を受けているかと思いますが、建築業界にもこの波は必ず訪れます。実際、失業するかもしれないと不安なサラリーマンが住宅新築を検討するとは思えませんし、企業の設備投資がこの状況下で投資の判断をするとも思えません。やはり家庭であれば節約、企業であれば経費削減となります。好景気の始まりは建設業とよく耳にしますが終わりの建設業だと最近はお考えたりしています。

建築士としてコロナウイルスと共存しつつもできる役割・社会へ貢献できる事を考えていかなければなりません。北海道青年委員会としても各支部の青年委員会と情報共有し北海道を盛り上げていきます。必ず近い将来また全道の青年建築士が一同に集まる機会があります。その日まで、しっかりと体調調整、また笑顔でお会いし、熱く語りあい、お酒を酌み交わしましょう！！楽しみにしております。

十勝支部

コーヒー飲んで頑張ろう！

副支部長

岡田 英樹



全国的に新型コロナウイルス感染防止のための緊急事態宣言が39の県で解除され、ここ北海道でも終息の方向ですが、いまだ感染者が増え予断を許さない状況が続いています。このような事態を誰が予想できたでしょうか？私のかすかな記憶では、中国発症のウイルスが世界的に広がり経済状況までも脅かすことを予言していた人がいます。名前も時期も思い出せませんが、昔聞いた時にはそんなことはあり得ないと思っていましたが、予言が的中してしまいました。この号が発行する頃には終息し、経済が廻る世の中になっていることを期待しております。

さてそんな中、十勝支部では鈴木新支部長が誕生して2期目になります。前奥支部長が逝去され、前前支部長の片所さんやその前の小甲さんも亡くなられ、不幸続きの十勝支部と言われていましたが、鈴木支部長の持ち前の行動力とラグビーで鍛えた体（関係あり

ません）と判断力により支部活動も活気づいてきたところです。

昨年帯広市内中心部で毎年行われている「まちなか歩行者天国」に夏休みの子供たちをターゲットとして、木工作を通じ建築や建築士に興味を持っていただきたいと青年委員会が中心になり椅子やブックエンドを子供たちと一緒に製作しました。恒例のイベントとして定着してきたところですが、残念ながら今年はずでに中止の決定がなされました。

鈴木支部長や菅野副支部長などのアイデアで始めた「建築の実務を学ぶ」勉強会があります。これは、実務経験の豊富な先輩の知識を、若い建築士に伝えよう！と数年前から初めた勉強会です。建築だけの知識に限らず、土地家屋調査士や各界の知識人を講師に、関連する内容を講義していただいたり、CADの裏技や法規・施工などの実務での経験・成功事例・時には失敗談など先輩たちが経験してきたことをお話ししていただきました。建築士として時には同じ悩みで困っている場合があります。参加者は建築士会会員に限らず、門戸を広げて一般社会人や会

員の会社若手社員なども参加し、大変参考になったと、好評でした。またこの勉強会によって建築士会に入会した若手建築士もおりました。

すっかり街に出ない習慣（夜の街にも）が身についてしまい会議も講習も無く、テレワークやWEB会議で出張も無く、リモート飲み会という新種の楽しみが意外と面白いといい、何となくコミュニケーションや仕事が出来て、お金もあまり使わないでいると、今までの行動や価値観が覆され、これでもいいのか？と思い、これからの新しい価値観や生活習慣になりつつあります。

コーヒーブレイクというコーナーなので、珈琲に関する話をすると、私は札幌のコーヒー店「可否茶館」のマンデリンが好きです。札幌時代に飲んでいて、今でも取り寄せて飲んでいます。またコスト的にはカルディのマンデリンフレンチもお勧めです。不安な時期ですが、コーヒー飲んで元気出して頑張りましょう！カフェインは元気のもとです。

名寄支部

名寄支部近況

支部長

川崎 俊彦



道内各支部の皆様におかれましては、お元気に士会活動されている事とお喜び申し上げます。

今年度1月に行われた名寄支部総会におきまして新支部長に就任させて頂きましたので今後ともよろしくお願い致します。

さて令和2年度名寄支部の近況と活動予定を報告致します。

名寄支部は、支部創設56年目を迎え1市、3町、1村（名寄市、下川町、美深町、中川町、音威子府村）で構成され南北間距離84kmと広範囲で、支部会員54名と名寄産業高校建築システム科1校を加

えて活動を行っております。

当支部では1月総会にて今年度の事業活動報告を行い、例年行っている名寄産業高校建築システム科卒業設計表彰と、建築士の日の支部会員焼肉親睦会、また今年から新しく名寄市と連携して支部会員による名寄市公共建築物維持保全の為、修繕、改善点検を名寄市建築課と共に行っていく事を協議中です。この事業を行う事で市との連携及び、名寄支部の地域貢献にも寄与できる物と考えております。

しかしながら今般の新型コロナウイルス状況下において、卒業設計表彰は学校と協議の上、表彰式は学校に一任し、支部会員の参加は自粛せざるを得ない状況でした。

また支部親睦会の開催や公共施

設の点検も流動的な状況の中、今現在も終息の見えないコロナ禍で、今年度事業は例年のようなにはいかない難しい年になりそうですが、道内の各支部も同じ状況だと思えます。

出来る事をこつこつと手探りで考えて乗り切っていくように努め、名寄支部活動も少しずつですが前進して行く考えを持って行かなければ成らないと思っております。

全道各支部の皆様におかれましてはこの時期をまずはご健勝に過ごされ支部活動に御尽力されますようご期待申し上げます、名寄支部の近況報告と致します。

どうぞ各支部会員の皆様、ご自愛され頑張ってくださいませ。

第44回北海道建築士会(網走大会)・第63回建築士会全国大会(広島大会)について

新型コロナウイルス感染拡大防止対策に伴い今秋に予定しておりました各大会につきまして、来年秋に延期することとなりました。詳細は、今月号同封の案内(全道大会)及び「建築士8月号」(全国大会)に掲載いたします。

道士会の動き

道本部の主な会議報告(6月)

◆第1回代議員選挙管理委員会

〈開催日〉6月1日(月)

- 〈議題〉1) 一般社団法人北海道建築士会 代議員選挙
2) 代議員選挙管理委員会の委員長の互選
3) 代議員選挙の日程等

道本部の主な行事予定(7月)

- 4日(土) 第2回女性委員会
5日(日) 二級建築士学科試験
9日(木) 第2回代議員選挙管理委員会
12日(日) 一級・木造建築士学科試験
18日(土) 第2回情報委員会

関係機関等会議参加予定(7月)

- 17日(金) 日本建築士会連合会臨時理事会(東京)
高野会長出席

講習会のご案内

監理技術者講習

7月16日(木) 函館市 7月21日(火) 札幌市

建築士定期講習

7月21日(火) 稚内市

第2期建築士定期講習(追加)開催(8月~9月札幌市)決まりました

詳細につきましては、同封の受講案内をご覧ください。

また、第3期~第4期につきましては、8月号に受講案内を同梱いたしますので、今年度が受講年度、平成29年度に建築士試験合格し建築士事務所に所属されている方は、忘れずに受講ください。

編集後記

暑い季節になりましたがオリンピックは延期、ビアガーデンもよさこいも中止となりさみしい夏となりました。建築士会では全国大会、全道大会も延期となりました。残念です。

今回の新型コロナ禍により建築士会の活動も変化をしていかなければならないことから、今月号の特集はWEB会議やオンラインセミナーなどの検討についての記事となりました。皆さんと共に考え構築して行けたらと思いますのでどうぞよろしくお願い致します。

情報委員会 片岡 哲二(札幌支部)

CPD認定プログラム(6月認定)

プログラム認定はありませんでした。

実務に役立つ建築法規解説2019 販売のご案内

令和2年1月~2月に開催の第53回建築基準法講習会で使用しましたテキストを販売いたします。

販売予定数に達した時点で終了となりますので、お早めにお求めください。



実務に役立つ 建築法規解説2019

編集=全道建築行政連絡会議

第53回 建築基準法講習会テキスト

◎A5判 ◎定価:3,700円

※送付希望の方へは書籍を送料着払で発送しておりますので、FAXにてお申度ください。なお、請求書は別途郵送いたします。(申込用紙は北海道建築士会のホームページからダウンロードできます。)

民間(七会)連合協定 工事請負契約約款(令和2年4月改訂版)販売中

昨年12月 改正民法等に対応した民間(七会)連合協定工事請負契約約款が販売中です。

◎定価930円(2部1セット)

内容:工事請負契約書/民間(七会)連合協定工事請負契約約款/建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律第13条及び省令第4条に基づく書面/仲裁合意書/特定住宅建設瑕疵担保責任の履行に関する特約/民間(七会)連合協定工事請負契約約款・契約書使用上の留意事項

その他、小規模建築物・設計施工一括用工事請負契約約款・リフォーム工事請負契約約款・マンション修繕工事請負契約約款・設計監理業務委託契約書を取り扱っております。

情報委員会委員長/斎藤 勝哉
副委員長/早川 陽子・森 勝利・前田 繁
委員/柏倉 晶憲・村山 賢司
片岡 哲二・境谷 香奈

北海道建築士 No.275号

印刷 令和2年6月/発行 令和2年7月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会
〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地
大五ビル
電話 (011)251-6076番
URL http://www.h-ab.com/

印刷 株式会社 正文舎
〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目
電話 (011)811-7151番